

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月1日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21320166

研究課題名（和文） 少子高齢・多文化社会における福祉・教育空間の多機能化に関する
歴史人類学的研究研究課題名（英文） Historical Anthropology on the Creation of Multifunctional Spaces
for Welfare and Education in Multicultural Aging Societies

研究代表者

鈴木 七美（SUZUKI NANAMI）

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授

研究者番号：80298744

研究成果の概要（和文）：社会の少子高齢化のもと、ケアへの関心が高まっている。だが、気遣い、配慮、関係性を紡ぐという意味でのケアは、すべての人に関係する事からである。本研究は、「ウェルビーイング」という観点から出発し、人々が協働作業としてのライフデザインに向けて声を発し、議論に参加する時間と場を創り続ける方法を検討し、ケアの意味と実践に関する考察を深めた。その成果を、国際シンポジウムおよび書籍刊行（鈴木七美他編、高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働、など）を通して提示した。

研究成果の概要（英文）：Owing to people's awareness of the current trends in society toward fewer children and increased aging, interest has grown in both general and elderly care. However, the kind of care that weaves together thoughtfulness, consideration, and relationships is something that everyone can relate to. This research has been designed to start out from the perspective of dealing with people's hopes and wishes for "well-being", so as to deepen the reflection of the meaning and practice of such care. We examined people's practices of looking for ways to continue to make the time and create the venues to voice their opinions and participate in discussions to think about life design as a cooperative project, and presented a wealth of material for discussion, by organizing international symposiums and publishing books and articles (Suzuki, Nanami, et al. eds. The Well-being of Seniors and Cooperation in Life Design, 2010, etc.).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2010年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2011年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
年度			
年度			
総計	14,200,000	4,260,000	18,460,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学 民俗学

キーワード：少子高齢社会 多文化社会 福祉 教育 歴史人類学

1. 研究開始当初の背景

少子高齢時代の多文化社会において、高齢者の介護をはじめ孤独死や孤立状態の子育てに起因する問題が憂慮され、近隣生活者が

出会う往来の場を人為的・自覚的に創出する試みも注目されている。日本でも、過疎化・高齢化が進む地域再生の一環として、多様な文化的背景を有する人々が世代を超えて交流する手法が模索されている。また、増加す

る外国人、とりわけ介護従事者との共生・協働も緊急の課題となっている。

(1) 2005年の日本文化人類学会分科会「介護の人類学」で研究代表者は、過疎化・高齢化する町における高齢者の技術を生かした産業振興を分析し、①高齢者として介護されるだけにとどまらないライフスタイルを現地の人々が見出したこと、②高齢者の活動を支えるため町の内外から集合した人たちが心地よく暮らす町に関するアイデアを町民とともに発信する場を設けたこと、に関する町の変動について提示した（「柿の葉を摘む暮らし - ノーマライゼーションを越えて」『文化人類学』70-3、2005年）。

(2) 一方で、研究代表者は、高齢化・多文化社会において、人々がより柔軟性に富む生活空間を確保する方法の検討に着手した。その一環として、カナダ連邦においては、様々なエスニック・グループや宗教集団が、独自の特徴を表現しながらも、「多文化主義」に適合すべく他文化集団に開かれた様式の高齢者対象施設を創出する経緯を追ってきた（「トロントの日系高齢者施設における試み - 広がる高齢者の活動と新しい文化創造」『少子化社会におけるライフデザインの実践と議論に関する文化比較の医療歴史人類学研究』平成17～平成19年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書、2008年）。その結果、それぞれの施設は、民族文化に配慮したエスニック高齢施設として発展するため常に「開放性」について工夫し調整を図ってきたことが判明した。

(3) さらに、研究代表者は、平成20年度国立民族学博物館機関研究プロジェクト「ライフデザインと福祉(well-being)の人類学」として、国際フォーラム「ライフデザインと福祉(well-being)の人類学 - 開かれたケア・交流空間の創出」（リポジトリ：<http://hdl.handle.net/10502/4550>）を企画した。この目的は、具体的には、①カナダの多文化主義のもとで開発されつつある高齢者を対象とする住居・福祉施設・大学プログラム、②年齢・資格を問わず希望者を受け入れるデンマークのフォルケホイスコーレ（実業学校）、③日本の産業振興型福祉と大学活用など、既存の施設の現状、および諸問題と可能性に関する現場からの報告を受け比較検討することである。

本研究はこれらの研究成果を発展させ、高齢化・多文化化する現代社会において、人々が孤立せずに暮らすのみならず、希望する生活を送るための具体的な方法を構成する諸要素について、現地調査に基づく文化人類学

研究によって精緻に比較検討し提示しようとするものであった。本研究は、多文化社会に適合する空間という観点（開放性）のみならず、生活する人々のニーズに応えるために、空間の多機能性（重層性）を工夫する活動について調査研究を進めた。

2. 研究の目的

本研究は、高齢化する多文化社会において、①高齢者をはじめすべての人が、ライフステージや立場によって限定されることなく、希望する多様な活動を可能にするための具体的な方法を構成する諸要素を明らかにすること、②既存の高齢者関連施設や教育福祉施設の用途を拡張して、常に変化する人々の多様なニーズを充足させる企画の発信と、それを安定的に実践するための柔軟な施設活用の仕組みを提示すること、を目的とする。人々が孤立せずに生活し、移動・交流や広範な活動を可能にする空間のデザイン・人員の配置と施設の重層性・開放性の関係性を、当該地域・社会のライフコースとライフコース間関係の歴史人類学的考察の裏づけと共に提示する。

3. 研究の方法

少子高齢化・多文化化という社会状況のもとで、高齢者のみならず様々な年代の人々は、いかなる暮らしを望み、またいかなる方法によってその実現が可能なのだろうか。この点を、とくに高齢者が心地よい暮らしの空間を創出しようと工夫し、多文化状況を意識する場面が多くみられるケース（多様なエスニック・グループや様々な世代が居住、あるいは、外来者と居住者が往来するなど、目的をもって設立された高齢者関連施設や大学の多機能化）を素材として検討する。

すなわち、①施設や機関に集う人々の多文化化の状況の変化（世代の違い、外来者の参加）と施設空間の重層化に関する比較研究、②福祉・教育空間の多機能化に関し、現代社会の通念に捉われない理論的深化を目指した文化人類学をコアとする学際的研究を推進する目的で、新たに他分野を専門とする連携研究者を加え、学際的共同研究を進めるものである。

その手法は、人々のライフスタイルに関する希望をミクロなレベルで掘り取り、諸問題を調整し、人々を一つのステータスに囲いこまない暮らしの可能性に関わるシステムや人材に関し、考察することである。

4. 研究成果

本研究は、平成 21 年度～23 年度にわたる 3 年間の研究期間を 1 年ずつの 3 期に分割し、各期で調査研究を実施した。平成 23 年度末までには、これらの成果を一般にも広く発信する目的でシンポジウムを実施し、書籍・報告書を中心に公刊した。

(1) 高齢者のウェルビーイングに関わる生活空間をテーマとした、下記の 2 つの国際シンポジウムの開催と成果公刊を行った。

①国際シンポジウム「エイジングー多彩な文化を生きる」(2012 年 2 月 25 日・26 日)

高齢化・多文化状況における共生社会構想に関し、3 つのセッションを設けてシンポジウムを実施した。

- ・「文化多元社会における高齢者のウェルビーイング」
- ・「高齢者のウェルビーイング追求から生活の場の共有へ」
- ・「災害地における生活変動と高齢者ケアの展開」

②国際シンポジウム「希望社会への道ースウェーデンと日本におけるウェルビーイングの思想と市民社会」(2010 年 11 月 17 日)

シンポジウムの成果は、主として下記によって公刊した。

③鈴木七美他編著『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、(2010 年)

④Nanami Suzuki ed., The Anthropology of Aging and Well-being: Searching for the Space and Time to Cultivate Life Together, SES (Senri Ethnological Studies), National Museum of Ethnology (2012 年 12 月 刊行予定)

(2) 多文化社会に生きる子どもたちのウェルビーイングからライフスタイル・共生社会のありようを考える下記の国際研究集会を開催した。

①国際シンポジウム「子どもたちの未来社会ー北欧の思想と実践ー」(2010 年 3 月 6 日)

②国際ワークショップ「広がる教育空間ー子どもたちのウェルビーイングから考えるー」(2010 年 3 月 7 日)

成果は、下記にて公刊予定である。

③Nanami Suzuki ed., Expanded Educational Space from the Perspective of Children's Well-being, SES (Senri Ethnological Studies), National Museum of Ethnology (2013 年 刊行予定)

(3) 実践者との対話の機会を重視し、研究者と実践者が協働して開催した国際フォーラム「ライフデザインと福祉(Well-being)の人類学ー開かれたケア・交流空間の創出」(リポジットリ: <http://hdl.handle.net/10502/4550>) セッションIV「技術と障害者から始まるコミュニティ・デザイン」(2009 年 3 月 1 日)を出発点として、すべての人が、社会空間における包摂について発言し、参加することができるという意味で使用されてきた語「障害のない社会」について検討した成果を、下記にて公刊した。

①鈴木七美編『「障害のない社会」にむけてーウェルビーイングへの問いとノーマライゼーションの実践』、SER (Senri Ethnological Reports) 102、国立民族学博物館、2012 年

(4) ケアに関わる理念のありかたについて検討する目的で、信教に基づく活動として多様なケア活動を展開してきた人々に焦点をあてた国際フォーラムを企画・開催した。

①国際フォーラム「21 世紀を生きるアーミッシュー日々の助け合いから国際協力へ」(2009 年 6 月 21 日)(リポジットリ: 要旨集 <http://hdl.handle.net/10502/4547>)

シンポジウムの成果を下記にて公刊した。

②Nanami Suzuki ed., The Anabaptist Ideas and the Way of Practicing Care: Reconsidering the Meaning of Life in the 21st Century, SES (Senri Ethnological Studies)79, National Museum of Ethnology, 2012

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 25 件)

①佐野(藤田)真理子、文化概念としての老い、日本民俗学(日本民俗学会)、査読有、266 号、2012、108-113

②陳天爾、華人とは誰かー教育とアイデンティティ、架橋華人研究(日本華僑華人学会)、

査読有、第8号、2012、43-84

③鈴木七美、デンマークにおける「障害のない社会」構想とノーマライゼーション—余暇活動としてのフォルケホイスコーレの展開、鈴木七美編、「障害のない社会」にむけて—ウエルビーイングへの問いとノーマライゼーションの実践、SER (Senri Ethnological Reports) 102、国立民族学博物館、査読有、2012、77-98

④佐野(藤田)真理子、多様性理解が育むウエルビーイング—高等教育のユニバーサルデザイン化と人材育成、鈴木七美編、「障害のない社会」にむけて—ウエルビーイングへの問いとノーマライゼーションの実践、SER (Senri Ethnological Reports) 102、国立民族学博物館、査読有、2012、7-29

⑤鈴木七美、Idea and Practice of Care Extended by Anabaptist People: Cooperation toward Developing Various Methods of Communication、鈴木七美編、The Anabaptist Ideas and the Way of Practicing Care: Reconsidering the Meaning of Life in the 21st Century, SES (Senri Ethnological Studies) 79、National Museum of Ethnology、査読有、2012、1-32

⑥鈴木七美、Popular Health Movements and Diet Reform in Nineteenth-Century America、*The Japanese Journal of American Studies* (The Journal published for The Japanese Association for American Studies)、査読有、2010、111-137

⑦鈴木七美、コミュニティ創生と健康・治療・食養生—18から19世紀南部におけるモラヴィア教徒の軌跡から、常松他編『アメリカ史のフロンティア I』昭和堂、査読無、2010、78-102

⑧鈴木七美、ケアする—ライフデザイン協働の時空間へ、鈴木七美他編『高齢者のウエルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、査読無、2010、3-20

⑨寺崎弘昭、生を養う—ウエルビーイングの射程、鈴木七美他編『高齢者のウエルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、査読無、2010、21-36

⑩白水浩信、寄り添う—福祉・教育の複合施設「楚洲あさひの丘」、鈴木七美他編『高齢者のウエルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、査読無、2010、37-52

⑪谷口陽子、つなぐ—災害復興地における地域社会作りの試み、鈴木七美他編『高齢者のウエルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、査読無、2010、53-68

⑫山田千香子、夢みる—バンクーバーにおける移住高齢者の生活とコミュニティ、鈴木七美他編『高齢者のウエルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、査読無、2010、85-102

⑬金本伊津子、探る—ブラジル日系高齢者のアイデンティティとウエルビーイング、鈴木七美他編『高齢者のウエルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、査読無、2010、117-132

⑭藤原久仁子、巡る—岡山県井原市「嫁いらず観音院」に託する高齢者の想い、鈴木七美他編『高齢者のウエルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、査読無、2010、149-162

⑮鈴木七美、渡る—世界や宇宙と響き合う物語へ、鈴木七美他編『高齢者のウエルビーイングとライフデザインの協働』御茶の水書房、査読無、2010、163-178

[学会発表] (計38件)

①鈴木七美、Development of a Life-care Community with Diverse Ethnic Cultures: Focusing on the Cooperation of People having Chinese and Japanese Background (Workshop (Representative: Suzuki Nanami): Rethinking the Meaning of Culture in a Multicultural Aging Society) 2012 Annual Conference of the American Society on Aging、2012年3月31日、Washington Marriot Wardman Park、Washington, DC, USA

②金本伊津子、Active Aging for Well-being of the Japanese Elderly in Multicultural Brazil (Workshop (Representative: Suzuki Nanami): Rethinking the Meaning of Culture in a Multicultural Aging Society) 2012 Annual Conference of the American Society on Aging、2012年3月31日、Washington Marriot Wardman Park、Washington, DC, USA

③鈴木七美、地域の育み—高齢者ケアからヴァナキュラーな知の共有へ、国際シンポジウ

ム「エイジング—多彩な文化を生きる」2012年2月26日、国立民族学博物館、大阪府

④佐野(藤田) 眞理子、アメリカ人高齢者とボランティア活動の意味、国際シンポジウム「エイジング—多彩な文化を生きる」2012年2月26日、国立民族学博物館、大阪府

⑤谷口陽子、日本の高齢女性のウェルビーイング追求の多様な手段：花嫁暖簾の展示活動に注目して、国際シンポジウム「エイジング—多彩な文化を生きる」2012年2月26日、国立民族学博物館、大阪府

⑥洪賢秀、韓国における終末期医療とウェルビーイング、国際シンポジウム「エイジング—多彩な文化を生きる」2012年2月25日、国立民族学博物館、大阪府

⑦金本伊津子、ブラジル多文化社会における日系高齢者のアクティブ・エイジングとウェルビーイング、国際シンポジウム「エイジング—多彩な文化を生きる」2012年2月25日、国立民族学博物館、大阪府

⑧稲葉洋子、被災地の図書館が担うこと、第53回日本図書館研究会研究大会、2012年2月20日、兵庫県中央労働センター、神戸市

⑨山本直美、施設の想定から外れる人びとのコミュニケーションとケア、国立民族学博物館機関研究シンポジウム「福祉と開発の人類学」(プロジェクト：ケアと育みの人類学) 2012年1月21日、国立民族学博物館 (大阪府)

⑩鈴木七美、An Attempt to Establish a New Home for Elderly Chinese- and Japanese-Canadians and Nikkei Groups in Toronto: Towards the Development of a New Culture Through Weaving Various Relationships Around the Aged, 110th Annual Meeting of AAA (American Anthropological Association)、2011年11月17日、Montreal Convention Center、Montreal、Canada

⑪鈴木七美、Creating a Community of Resilience: The Art of Searching for New Meanings of Materials for Greater Well-being in a Depopulated Town、(Session 10: (Representative: Suzuki Nanami): Recontextualization of Technologies and Materials: Pursuing the Well-being in Aging Society) 2011 SEAA Conference SEAA: Society for

East Asian Anthropology、2011年8月2日、Chonbuk National University, Jeonju, Republic of Korea

⑫谷口陽子、Pursuing the Well-being of Elderly Women: Creating a New Meaning for Hanayome Noren (Session 10: (Representative: Suzuki Nanami): Recontextualization of Technologies and Materials: Pursuing the Well-being in Aging Society) 2011 SEAA Conference SEAA: Society for East Asian Anthropology、2011年8月2日、Chonbuk National University, Jeonju, Republic of Korea

⑬藤原久仁子、Religious Commodities and Narrative Creation: The Consumption of Removable Deity Head, Card Amulets and blessed Underclothes (Session 10: (Representative: Suzuki Nanami): Recontextualization of Technologies and Materials: Pursuing the Well-being in Aging Society) 2011 SEAA Conference SEAA: Society for East Asian Anthropology、2011年8月2日、Chonbuk National University, Jeonju, Republic of Korea

⑭洪賢秀、Tracking New Lives and Well-Beings of ALS Patients with Technologies (Session 10: (Representative: Suzuki Nanami): Recontextualization of Technologies and Materials: Pursuing the Well-being in Aging Society) 2011 SEAA Conference SEAA: Society for East Asian Anthropology、2011年8月2日、Chonbuk National University, Jeonju, Republic of Korea

⑮岸上伸啓、北アメリカ極北先住民の生き方とウェルビーイング：カナダのイヌイトとアラスカのイヌピアットを事例として、2010年度第5回共同研究会「ウェルビーイング(福祉)の思想とライフデザイン」、2011年2月12日、国立民族学博物館(大阪府)

⑯有賀美和子、フェミニズム・シティズンシップ論の新展開—市民社会における「ケア権」の構築にむけて、2010年度第1回共同研究会「ウェルビーイング(福祉)の思想とライフデザイン」、2010年7月31日、国立民族学博物館(大阪府)

⑰鈴木七美、Reflections on Ageing and Leisure Activities from the Perspective of Well-being of the Elderly, Seminar of NISAL (National Institute for the Study of Ageing and Later Life)、2010年3月18日、

Lincöping University, Norcöping, Sweden

⑱鈴木七美、地域全体で進める創造的ケアのかたち、湘南村国際フォーラム「持続可能な社会へ向けて—ケア・コミュニティ・自然」2009年7月11日、湘南国際村センター（神奈川県）

⑲鈴木七美、オルタナティブ教育と時のデザイン—現代アメリカにおけるアーミッシュという生き方、日本文化人類学会第43回研究大会 分科会：教育人類学—オルタナティブの視点から、2009年5月31日、大阪国際交流センター（大阪府）

⑳佐野（藤田）真理子、高等教育のユニバーサルデザイン化が変える大学教育、日本文化人類学会第43回研究大会 分科会：教育人類学—オルタナティブの視点から、2009年5月31日、大阪国際交流センター（大阪府）

㉑金本伊津子、多文化社会におけるエイジングとライフロング・ラーニング—日系の人々が伝えるもの、日本文化人類学会第43回研究大会 分科会：教育人類学—オルタナティブの視点から、2009年5月31日、大阪国際交流センター（大阪府）

〔図書〕（計3件）

①鈴木七美編、国立民族学博物館、「障害のない社会」にむけて—ウェルビーイングへの問いとノーマライゼーションの実践、SER (Senri Ethnological Reports) 102、2012、114

②鈴木七美編 National Museum of Ethnology, The Anabaptist Ideas and the Way of Practicing Care: Reconsidering the Meaning of Life in the 21st Century, SES (Senri Ethnological Studies) 79, 2012, 82

③鈴木七美・藤原久仁子・岩佐光弘編、御茶の水書房、高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働、2010、188

〔その他〕

ホームページ等

国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/organization/staff/suzuki/index>

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/21320166>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 七美 (SUZUKI NANAMI)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授

研究者番号：80298744

(2) 研究分担者

陳 天爾 (Chen Tien-shi, Lara)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・准教授

研究者番号：40370142

岸上 伸啓 (KISHIGAMI NOBUHIRO)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授

研究者番号：60214772

(3) 連携研究者

金本 伊津子 (KANAMOTO ITSUKO)

桃山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：60280020

山田 千香子 (YAMADA CHIKAKO)

長崎県立大学・経済学部・教授

研究者番号：30311252

谷口 陽子 (TANIGUCHI YOKO)

専修大学・経済学部・非常勤講師

研究者番号：10432048

寺崎 弘昭 (TERASAKI HIROAKI)

山梨大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：60163911

白水 浩信 (SHIROZU HIRONOBU)

神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：90322198

佐野 真理子 (SANO MARIKO)

広島大学大学院・総合科学研究科・教授

研究者番号：80206002

藤原 久仁子 (FUJIWARA KUNIKO)

大阪大学大学院・人間科学研究科・特任研究員

研究者番号：00464199

高 正子 (Ko, Geongja)

天理大学・国際文化学部・非常勤講師

研究者番号：80441418

有賀 美和子 (ARUKA MIWAKO)

東京女子大学・文理学部・准教授

研究者番号：90202770